

阿手隧道。石川県小松市尾小屋町の**尾小屋鉱山**と、山隣の白山市**阿手町**の間にあった明治隧道。延長は**推定700m**。明治時代に作られた**道路用隧道**では栗子隧道に次ぐ**2番目の長さ**を誇った。「明治工業史・土木編」ではその北の**鳥越隧道**のことと記されているが、**違う**。鳥越隧道は**当時から300mクラス**だった。

号

阿手隧道。今誰も**その存在を忘れた**。今はもちろん**地形図にない**。事前調査によれば阿手から尾小屋鉱山への出勤道でもありまた阿手の生命線でもあった。現在**尾小屋鉱山側の坑口は数年**

前は30cm程開いていたとは鉱山資料館の館長氏の話。尋ねてくれれば**現地まで案内**してくれるという約束も取り付けている。

予

だが。そこは尾小屋鉱山資料館の敷地であると同時に館を管轄する**小松市教育委員会の管理地**でもある。よしんばその隧道が口を開けていたとしても、中に入るには**教育委員会の許可を得る**ことが求められている。

昨年からの宿題。そろそろ掛からねばならぬ。玉砕覚悟で正面から斬り込むか？ 誰かを誑かして目的を遂げるか？ それとも？ 結果は**次号でお伝え** **できるかも知れない。**

告





次

今回1号飛ばしてみてもずいぶん吹っ切れたような希ガスだけど、これを機に**2月に1回発行**にしたらどうだろうねという話もある。実際みんなネタ切れで次回の**魔道を読む**はついに**橋**

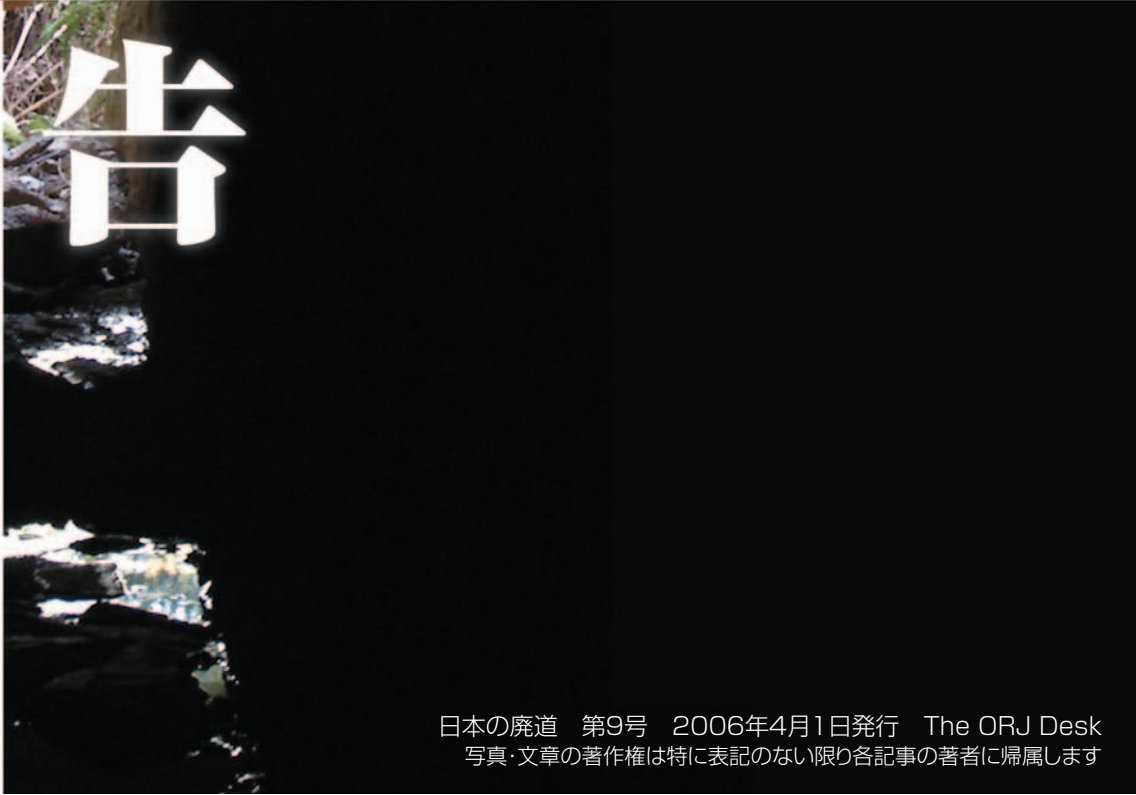
に手を出すはめになりそうだ。阿手隧道にも行きたいしバックナンバーCDも進んでないし(期待されている方申し訳無し)援軍を要請する話も進めなきゃいけないし。特に最後の一つは**編集部だけが頑張ってもつままない**ことが判明した今最も可及的速やかに行なわねばならない改革だ。従って次号は**6月1日**発行になる**可能性大**。そのかわりwebをもちっと賑やかにするよ。

予

で、予告が2ページもあるとは思わなかったでしょ。でしょでしょ。お気付きの通り今回は**ヨッキレン**多忙懇望エクリヒポー(謎)につきお休み。次号はきっと寄稿してくれるに違いない。まあ人間誰しも休息が必要さね、と**私事で欠号**した**nagajis**が言うのも何だけどさ。今号から~~人を手ワラ扱い~~ORJを支えてくださる**TUKA**さんにも何か書いてほしいところだけどそれは余りに押し付け

号

けかも知れないな。相談もしてないし...**あきら**氏はむしろ引き続きの**俺流**取りまとめが大変そう。すでに**ピカ**さんから**完全原稿**を買っていて、はっきり言ってnagajisの出番はありません(泣。



告